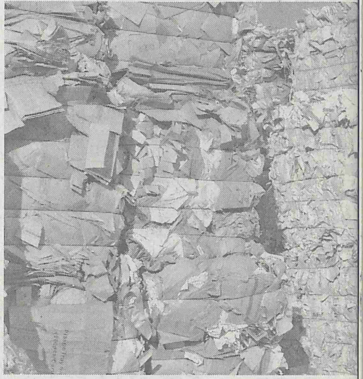
古紙輸出はベトナムが急上昇した



段ボール輸出はアジアで増える

SDGsプロジ

X線塩素測

開始した。

「リサイクル原料の品質向上で日本の資源循環を促進する」を目標に掲げた金属分析チームは、RPFを製造する事業者向けに、廃プラスチック類等の塩素濃度を測定できるハンドヘルドタイプのX線分析器「エ

近赤外線でプラ材質判別

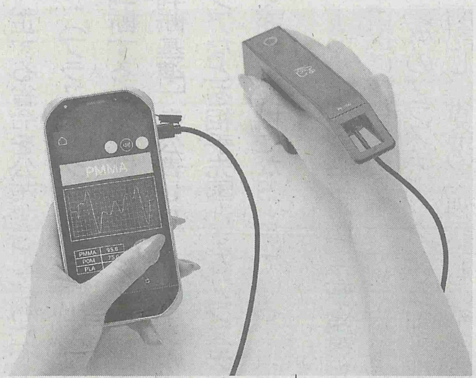
ハンディタイプ、誰でも簡単

リサイクルの現場に最適

山本製作所

環境関連機器の製造・販売を手掛ける山本製作所（山形県天童市、山本丈実社長、ソリューション事業部☎0237・43・8815）はこの度、近赤外線分光法による、ハンディタイプのプラスチック材質判別装置「ぷらしる」を開発した。読取センサが内蔵されたセンサ部と判別結果を表示するタブレットで構成されており、重量が約400㌘と軽量で持ち運びしやすい。12種類のプラスチック樹脂が判別でき、ベテランの経験則に依存しがちな材質判別業務をどこでも誰でも、簡単に、同じ基準で行える。

測定したい材質に読取センサを接触させて、判別ボタンを押すと自動で判別が始まる。対象物に近赤外線を照射し、対象が反射した光の波形を測定する。測定された波形データは、同装置に登録されている12種類のプラスチックの波形データと照合され、最も波形が近い材質が表示される。ある二つのプラスチックが同じ材質かを判別すること（一致判定機能）、ユーザーが測定したプラスチックの波形データを登録（ライブラリ登録機能）してそのデータを基準に材質判別することもできる。



「ぷらしる」で判別しているようす

判別可能なプラスチックの材質はポリスチレン、低密度ポリエチレン、高密度ポリエチレン、ポリプロピレン、PET、ABS、ポリ塩化ビニル、ポリカーボネート、ポリブチレンテレフタレート（PBT）、POM、アクリル（PMMA）、ポリアミドの12種類となっている。

現在、産業廃棄物処理業者やリサイクル業者の多くは、プラスチックリサイクル原料の判別を「手触り」「弾力」「匂い」「燃え方」などベテランの経験則に依存している。今回の新製品によって、この判別業務を誰でも簡単にできるようになる。

2019NEW環境展でプロトタイプを実演した際には、「学校教育に使えるのではないか」「マテリアルリサイクルを中心としたゼロエミッションをサポートするツールとして興味深い」などの意見が寄せられたという。

担当者によると、こ一は%、ppmのどちら（1196）

福岡市

古紙追加で事業系3分別に

処理費用は7円の半額

福岡市は、10月1日から事業系一般廃棄物の分別ルールが変わり、「古紙」を追加して、現在の「燃えるごみ」「燃えないごみ」と合わせて3分別になった。福岡市の事業系「燃えるごみ」の中には、年間約7万㌧の「古紙」が入っていたが再生できずに焼却処理していた。3分別に変更後は「古紙」を「燃えるごみ」として出せない。焼却施設に搬入することはできなくなった。

分別ルールの中に「古紙」を品目に入れたのは再生率を上げるため。福岡市は、古紙リサイクルを推進するため環境整備を進めてきた。これまで、古紙回収は「古紙回収業者に依頼する方法」が中心だったが「ごみ収集業者に依頼する方法」が新たに加わった。古紙業者とごみ収集業者を併用することもできる。

市民は、焼却よりも古紙回収は処分費用が半分になるためメリットはある。ごみ焼却費として、14円／㌔＋収集運搬費を支払っていた。古紙回収費については、福岡市リサイク

ルベースが
には、7円
収集運搬料
0円／50
紙回収は、
っては得す
福岡市リサ
スは、商店
から排出さ
一般廃棄物
源化可能な
別資源化を
福岡市内全
系一般廃棄
許可業者の
を活用して
資源化を行
古紙業者
「福岡市ペ
イクル協同
福岡市の古
収や拠点回
ごみの引き
区紙リサイ
ションの設
きた。協同
事業用環境
岡市で一般
運搬業の許
者の団体。
生するごみ
等で多量に
みの収集を
どちらも古

統合型産業廃棄物業務パッケージソフトウェア
SMS 産廃ソフト
クリック カチッ！
詳しくは　産廃イチロー　検索
株式会社エスエムエス　073-435-4111